

すぎふあみ 便り

杉並区教育委員会が発信する
家庭教育情報。
保護者が家庭や地域でより豊かに
子育てするためのヒントをお伝えします。



ビジョンが掲げる「みんなのしあわせを創る杉並の教育」に関し、策定後、区内のいくつかの小中学校で話し合う場が持たれています。「しあわせ」をキーワードとし、子どもの声を重視したのはなぜでしょう

ビジョンを策定した杉並区教育振興基本計画審議会において、ひとつの指標として「ウェル・ビーイング」(*)が提示され、それを子どもも大人も誰にでもわかるよう、「しあわせ」と表現しました。学校や街のイメージを尋ねた、審議途中のアンケートにも「みんな楽しくしあわせに暮らす街になってほしい」などの子どもの声もありました。大人が子どもに何かをさせたり、学校での目標値を定めたりする立ち位置からではなく、審議当初より子どもの声を聴き、この先10年の教育理念を考えようと議論を重ねました。

その中で、子ども、大人の誰もが学びの主体であり、人格のあるかけがえのない存在であることを確認し合いました。誰もがしあわせに生きるために、ともに学び、社会を創る当事者として位置づけます。予測不可能な時代、個人的な「happiness」の追求だけでなくより広い視座から、今後何が大切なかを対話していく必要があります。子どもも当然、社会的存在で、その声が聴き取られることは不可欠です。

(*)「個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味し、OECD（経済協力開発機構）が世界の教育の目標として掲げる概念。」

例えば、わが子がいう「しあわせ」と、親が望む子どもの「しあわせ」が食い違い、子どもの声を聴いても大人の思いとズレる場合、どうすればいいでしょう？



子どもも大人と対等の、人格を持った人間です。その子が考える「しあわせ」は尊重されなければなりません。意見が異なる際、両者が上下関係、権力関係にあれば、子どもは親や先生などの大人の意向に黙って従い、大人が先回りして与えた「しあわせ」の枠組みにはまるよう

Profile



河邊貴子(かわべ たかこ)さん

聖心女子大学教授。博士(教育学)。保育者の学びの場「ぐうたら村」(代表:汐見稔幸氏)の理事。東京都立幼稚園の教諭として12年間保育に携わり、都立教育研究所の指導主事、立教女学院附属幼稚園天使園園長等。理論と実践の両輪を大切にしている。

「子どもの声を聴く」を考える ～「しあわせ」を手がかりに

今後10年の「杉並区教育ビジョン2022」(以下、ビジョン)は、策定時から子どもの声を聴くことを大切にしています。ビジョンの審議会委員を務め、長年、保育、幼児教育の実践と研究に携わる聖心女子大学教授の河邊貴子さんにその理由などを伺いました。

に振る舞います。大人の側に命令した自覚はなくとも、子どもは大人の思い通りに動かされ、自分の気持ちを聴かれぬまま、気持ちを押し込めて育つことになります。

一方、「ずっと遊んでいたい」「嫌だからやりたくない」なども、即事的な「しあわせ」を求める表現ともいえます。大人にとっては困りものかもしれませんが、子どもが声をあげ、思いを伝えられる関係にあるとも捉えられます。

そんな時、子どもの行為や気持ちを尊重し、別の観点から自身の思いを伝えられるとよいでしょう。例えば、夕飯間際に子どもが遊び続ける場合、「遊びたい」気持ちがあることを認めたと上で、「(私も家族も)あなたと一緒にごはんを食べたいから片付けてほしい」と、出来事に焦点化して声掛けします。反面、「わからずや」「わがまま」といった人格を否定するような言葉は避けたいものです。



子どもの声を丁寧に聴きたい反面、時間がないなどの葛藤があります

忙しい毎日、保護者のみなさんはよく頑張っています。私が育った昭和の時代は、みんなのんびり暮らしていましたが、現代のほうが汲々としています。時間がとれずに理想と現実の板挟みで余計にイライラすることもあるでしょう。でも、言葉や会話だけがすべてではありません。

例えば、年齢が低いほど言葉が未熟で、幼児ならなおのこと、表情や態度など表現しているものすべてを見て聴きます。子どもに温かなまなざしを向けるだけで、子どもは安心します。子どもは大人のことをよく見えています。

子どもに寄り添うことを基盤にしながらも、さらに興味関心を広げるのが教育の役割です。幼児教育、保育の現場では子どもの様子をよく観察し、その子の創発を見極めつつ、可能性が広がるような仕掛けを少しずつ用意しますが、それは専門職の役目です。

日々の暮らしの中で、嬉しいことや楽しいこと、悲しいことも含め、親自身が自分の感情に気づき、それを言葉にしてみるといいかもしれません。お互いの言葉を聴き合うことも一つの「しあわせ」ではないでしょうか。



家庭教育講座の窓から 令和4年度の家庭教育講座

杉並区教育委員会の主催講座は教育ビジョンの策定に携わった方々を講師に迎え、大竹智さんの講座「あるべき子ども像に縛られていませんか」では子どもの思いを尊重することの大切さを、河邊貴子さんからは「遊びの中で子どもは育つ」と題し幼児期の遊びの大切さと子どもへの寄り添いかたをお話いただきました。また、教育委員会共催の家庭教育講座は6講座が開催され、コロナ禍を経て「子育てについて共に学び合う場」が再び広がっていくのを実感する1年でした。地域の中で自ら学びの場をつくってみたい方は、家庭教育講座を開催するための支援がありますので、ご活用ください。

■講座の企画や相談、開催予定などは、杉並区教育委員会事務局 学校支援課 家庭・地域教育担当まで【お問合わせ】電話：03-5307-0759（直通）✉ gakkou-sien@city.suginami.lg.jp